

【小学校の部】 最優秀賞 (大分県教育の日推進会議会長賞)

大切な地域の人々へお返し

津久見市立堅徳小学校 6年
川野 光輝



ぼくは、朝七時半と夕方四時の登下校で、毎日地域の人にあいさつをしています。

「ただいま帰りました。」と言うと、

「お帰り。」と、笑顔でこたえてくれます。

登下校中のあいさつだけでなく、いろいろな場面で地域の人とちょっとした話もします。中には、朝、畑でとれた新鮮な野菜をくれる人もいます。一年生の時から毎日声をかけてくれるので、顔なじみといった関係です。

野菜やお菓子のおすそ分けをしてくれたら、こっちもお返しにと、スイカやメロン、魚などをおすそ分けします。ぼくはなぜか、このお返しをするのが楽しくて、いつもすがすがしい気持ちになります。この気持ちは、物のお返しの時だけでなく、言葉のお返しの時にもわいてきます。歩いていて、地域の人に、

「いってらっしゃあい。」

「おはようございます。」と言われた時や、夕方家に帰る途中に、

「お帰り。きょうも暑かったやろ。」

「おつかれさま。家までがんばれ。」

「背が伸びたなあ。背比べしようえ。」などと声をかけられた時にも、すがすがしい気持ちになるのです。だから、ぼくも、

「ありがとうございます。」と地域の方に負けないくらいの笑顔のお返しをしています。日々、地域の方が話しかけてくれるので、楽しく前向きな気持ちになれます。

このほかにも、地域の方々から学ぶことがたくさんあります。今までにいろいろなことを教えていただきました。例えば、壊れたイスや机の修理の仕方です。イスの背もたれのところが破れていると、近所の人が、かわりの布を貼って、自分流に使いやすくなおしてくれました。ぼくはそれを見て、「家にあるもので修理するなんてすごいなあ。」と感心すると同時に、「楽しそうだな。自分もやってみたいな。」と思いました。

最近、隣のおじさんとよく話をします。そのおじさんは機械や生き物のことをよく教えてくれます。木のミニカーを作った時、わからないところは聞きながら自分なりに作りました。特にモーターのところが難しかったのですが、合うパーツがなくて困っていると、おじさんがちょうどいいパーツを探してくれました。すごくうれしかったです。

このように、ぼくは小さい時からずっと、地域の方には、毎日お世話になっています。今までにたくさん声をかけてもらったり、たくさん教えてもらったりしたので、これからは、自分のできることで、お返しをしていきたいと思っています。どんなお返しがいいのか、まだ考え中ですが、ぼくの習っている「なぎなた」のことを教えたり、自分から笑顔で話しかけたりして、今までの感謝の気持ちを届けたいと思っています。